

## 再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担当課:都市局 街路交通施設課

担当課長名:青柳 太

事業名	連続立体交差事業 JR武豊線(半田駅付近)	事業区分	連続立体交差	事業主体	愛知県
起終点	自:愛知県半田市本町1丁目 至:愛知県半田市神明町3丁目			延長	約2.6km
事業概要					
本事業は、半田市の中心市街地を南北に縦断する東海旅客鉄道武豊線約2.6kmを連続的に高架化して、9箇所の踏切を除却することにより、道路交通の円滑化を図るとともに、鉄道により分断された地域を一体化して、良好な市街地を形成するものである。					
H28年度事業化		H27年度都市計画決定		H29年度用地着手	
R2年度工事着手					
全体事業費	約250億円	事業進捗率	約33%	供用済延長	-km
計画交通量	103,989台時/日(踏切交通遮断量)				
費用対効果分析	B/C(事業全体)	EIRR(事業全体)	総費用(残事業)/(事業全体)	総便益(残事業)/(事業全体)	基準年
	1.1		137 / 226億円	247 / 247億円	
	1.8 [2%]	4.5%	事業費: 137/226億円	移動時間短縮便益: 221/221億円	令和6年
	2.3 [1%]		維持管理費: 0.1/0.1億円	走行経費減少便益: 24/24億円	
	(残事業)	(残事業)	更新費: -/-億円	交通事故減少便益: 2/2億円	
1.8		感度分析(事業全体)	(残事業)		
2.8 [2%]	7.5%	交通量 B/C=1.1~1.1(±10%)	交通量 B/C=1.8~1.8(±10%)		
3.6 [1%]		事業費 B/C=1.0~1.2(±10%)	事業費 B/C=1.6~2.0(±10%)		
		事業期間 B/C=1.0~1.2(±20%)	事業期間 B/C=1.7~2.0(±20%)		
事業の効果等					
① 踏切遮断の解消 (都)前明山中蓮線 踏切渋滞長:最大450m(主要渋滞箇所(踏切)指定踏切)踏切渋滞の解消 (都)荒子線 踏切渋滞長:最大260m (都)土井山新居線 踏切渋滞長:最大230m(主要渋滞箇所(踏切)指定踏切)踏切渋滞の解消					
② 踏切事故の解消					
③ 魅力ある市街地の形成 区画整理事業や街路事業等と一体となってまちづくりを進めている					
④ 歩行者・自転車の利便性・安全性の向上					
関係する地方公共団体等の意見					
【半田連続立体交差事業促進期成同盟会(R6.11.27)】 【愛知県鉄道立体交差事業促進協議会(R6.11.7)】 ・連続立体交差事業の計画的な事業促進が図られるよう要望する。					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める(R6.12.23)。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
周辺環境等に特に変化はない。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率100%、事業進捗率約33% 令和5年1月に仮線切替を実施した。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
不発弾調査、水路移設工事及び用地取得に係る補償は概ね完了しており、計画どおり事業が完了する予定である。					
施設の構造や工法の変更等					
今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。					

対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。
事業概要図	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)